

鹿児島県出水市（国内 32 例目）の高病原性鳥インフルエンザ発生農場に係る
疫学調査チームの現地調査概要

令和 4 年 12 月 9 日に実施した現地調査により、以下のことを確認した。

1 農場の周辺環境・農場概況

- ① 当該農場は丘陵地に位置しており、周辺を林に囲まれていた。
- ② 当該農場はウインドレス鶏舎 3 棟で、いずれも 2 階建て 4 段 4 列式ケージで採卵鶏を飼養していた。
- ③ 当該農場は国内 17 例目、19 例目、23 例目、24 例目、27 例目及び 30 例目のそれぞれの発生農場を中心とした半径 3 km 以内の移動制限区域に位置している。

2 通報までの経緯

- ① 国内 17 例目の発生に伴い 11 月 25 日に実施した周辺農場検査において陰性が確認されていた。
- ② 飼養管理者によると、発生鶏舎（通報時 609 日齢）において、1 日当たりの死亡鶏は、12 月 1 日から 12 月 7 日まで 6～19 羽程度で推移していたところ、12 月 8 日に同一ケージ内で複数羽の死亡及び衰弱を確認したことから、契約会社を通じて家畜保健衛生所に通報したとのこと。
- ③ 発生ケージは、1 階の鶏舎入口から見て一番奥の 4 列目の鶏舎奥側寄りの下から 2 段目だったとのこと。発生鶏舎以外では異状は認められなかったとのこと。
- ④ 調査時、発生ケージでは沈鬱が確認されたが、周囲のケージでは特段の異状は確認されなかった。また、非発生鶏舎において異状は確認されなかった。

3 管理人及び従業員

- ① 当該農場の従業員は 6 名で、全員が鶏舎内の飼養管理、集卵、鶏糞・堆肥作業を行っており、飼養管理については毎日 1～2 名が担当していたとのこと。
- ② 当該農場の従業員を含め、他農場との人・物の行き来はなかったとのこと。

4 農場の飼養衛生管理

- ① 農場出入口には車両消毒ゲート及び立入禁止看板が設置されていた。農場敷地の境界に塀や柵はないが、夜間は農場入口に続く通路に進入禁止のロープを設置していたとのこと。
- ② 衛生管理区域に入場する車両は全て車両ゲートで消毒を実施していたとのこと。
- ③ 飼養管理者によると、従業員は通勤時車両を衛生管理区域外の駐車場に停めた後、衛生管理区域出入口にある事務所にて衛生管理区域専用作業着及び靴に更衣し、手指消毒を行っているとのこと。衛生管理区域に出入りする飼料運搬業者や集卵業者は、衛生管理区域専用作業着及び長靴を持参し、着用しているとのこと。その他外来入場者については、農場が用意した防護服及び長靴を着用させているとのこと。
- ④ 飼養管理者によると、鶏舎出入口では、衛生管理区域専用靴を踏込み消毒（逆性石けん、毎日交換）し、鶏舎内で保管している鶏舎専用靴に履き替え、鶏舎専用の手袋を着用し、手指消毒を実施しているとのこと。
- ⑤ 鶏舎横の飼料タンク上部には蓋が設置されており、鶏舎内のラインを通じて自動給餌する構造となっていた。
- ⑥ 給与水は地下水を使用しており、次亜塩素酸ナトリウムによる消毒を実施した上で、鶏舎内のラインを通じて自動給水する構造となっていた。
- ⑦ 飼養管理者によると、農場敷地内のアスファルト部分に週 2 回逆性石けんで噴霧消毒するとともに堆肥舎周辺に週 1 回程度消石灰を散布していたが、国内 10 例目（県内 1 例目）の発生以降はそれぞれ毎日及び 2 日に 1 回の頻度で実施していたとのこと。
- ⑧ 鶏舎から集卵舎へは集卵ベルトでつながっており、集卵ベルトの鶏舎外への開口部は

稼働時以外はシャッターで閉鎖されているとのこと。

- ⑨ 鶏舎内の鶏糞は4日に1回除糞ベルトにより鶏糞乾燥施設に搬出され、乾燥させた鶏糞は系列農場（国内19例目）にある焼却施設に3週間に1回運搬して処理され、乾燥させない鶏糞は当該農場でコンポスト処理された後に鶏糞乾燥施設で堆肥化処理されるとのこと。完熟堆肥は堆肥舎に運搬され、製品として保管されていた。発生鶏舎は除糞ベルトが地下に設置されており、鶏舎内の開口部は稼働時以外は板で塞がれていた。
- ⑩ 飼養管理者によると、死亡鶏の回収は鶏舎見回り時に行い、毎日系列農場の死鳥保管庫に搬出していたとのこと。系列農場での発生後はコンポストに投入していたとのこと。
- ⑪ 鶏糞及び死亡鶏の系列農場への運搬トラックについては、当該農場及び系列農場のそれぞれの入退場時に消毒ゲートでの消毒を実施していたとのこと。
- ⑫ 飼養管理者によると、鶏舎ごとにオールイン・オールアウトを実施しており、アウト後に鶏舎の清掃、消毒を行い、その後の空舎期間は45日程度設けていたとのこと。
- ⑬ 飼養管理者によると、通常この時期の鶏舎内換気は、鶏舎側面のインレットから吸気し、換気扇から排気を行っていたが、通報前日からインレットを閉じ、2階のクーリングパッドのみから吸気を行っていたとのこと。クーリングパッドの水は次亜塩素酸ナトリウムで消毒を行っていたとのこと。発生鶏舎のクーリングパッドがスズメによって破損したが、早急に補修したとのこと。

5 野鳥・野生動物対策

- ① 衛生管理者によると、農場周囲ではカラスをよく見かけるとのことで、調査時にも農場上空で多数のカラスが確認された。農場上空ではツルの飛来を見かけるとのこと。
- ② 調査時、鶏舎外周には野生動物の糞が認められた。
- ③ 飼養管理者によると、鶏舎内では、ネズミを見かけることはあまりないがいるとのことで、ネズミ対策として殺鼠剤を置いているとのこと。調査時にも死亡したネズミが確認された。

（以上）